公益社団法人　全国大学体育連合

英語で行う大学体育の授業に関する調査結果ダイジェスト

大学教育におけるグローバル化が進展し、英語だけで授業をする学部や学科の新設が相次いでいる。大学体育もその対応に迫られているので、このようなグローバル化に対応するための授業法や指導書、研修プログラムの開発が必要になってきている。そこで、授業の実態やニーズを探るためにアンケート調査を実施した。

調査の概要

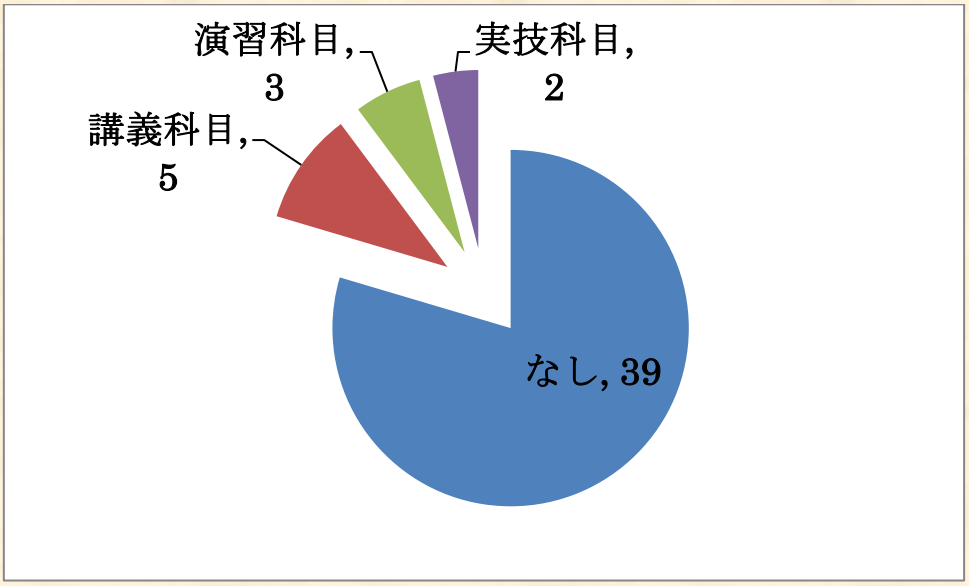
調査期間：2014 年 9 月 5 日から 9 月 30 日

調査方法：全国大学体育連合のメールニュースで約 1,600 人に調査依頼を発信し、ウェブで回答を求めたところ、45 人から回答を得た。

結果報告：『大学体育』第 104 号（12 月発行）に掲載予定。

結果１　英語で授業をしているのは、講義が５，演習が３、実技が２。

勤務校の保健体育の授業の中で、英語で授業をしているものは合計で 10。「していない」との回答は 39 であった。

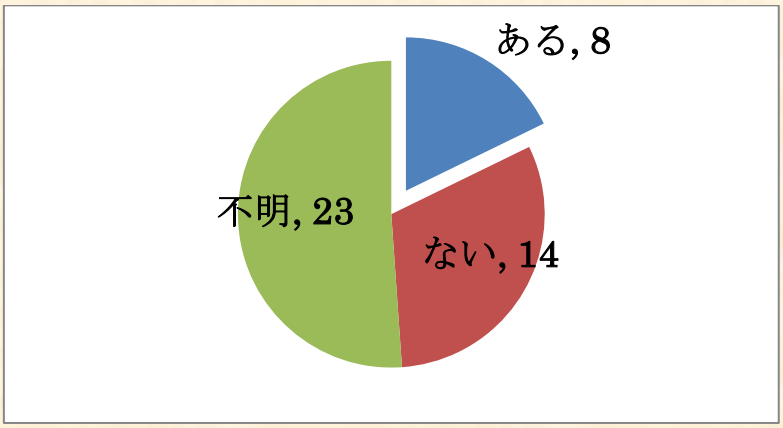


結果２　英語で実技をしている種目

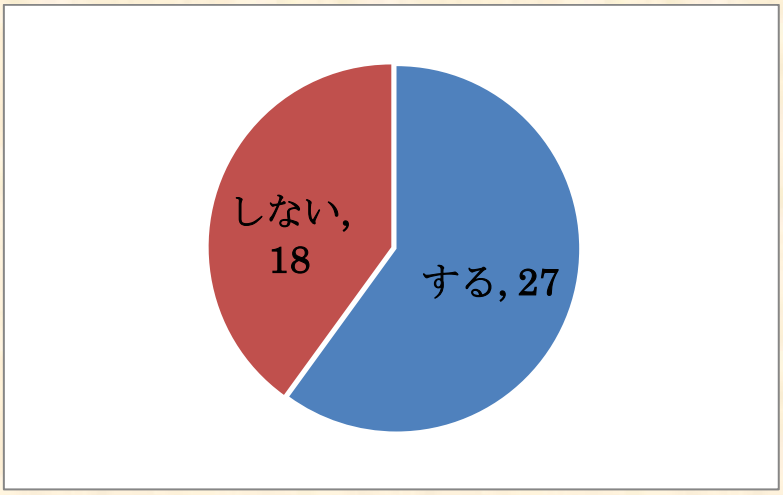
英語で行っている実技科目の種目は以下の通りであった。

柔道、剣道、フラッグフットボール、サッカー、ハンドボール、テニス

結果３　将来、英語で行う授業を開講する予定があるのは８。
「ない」が 14、「不明」が 23 であった。



結果４　英語で授業を行うための研修会に「参加を希望する」との回答は 27。
参加希望者の中には、将来、英語で行う授業を担当する予定が「ない」教員もいた。



2015 年 2 月 9 日～10 日に筑波大学東京キャンパスで開催する第３回大学体育研究フォーラムで、「英語で行う授業」のラウンドテーブルを開きます。どうぞ、ご参加ください。なお、８月開催の大学体育指導者養成研修会では研修プログラムを開催予定です。

作成：大学体育関連情報調査チーム
小林勝法、北徹朗、木内敦詞

健やかで活気に満ちたキャンパスと社会を実現する
全国大学体育連合